

43. 《官位を持った象》

「広南従四位白象」と官位名が付いた象がいます。徳川吉宗の時代、ベトナムから長崎に到着した象が、1729年（享保14）陸路で江戸へ往く途中、京都御所で天皇に謁見するため（注1）、“従四位”という官位（注2）を授けられたのです。

道中は、沿道の村々に “道を綺麗にして象の飲む水を用意すること、見物で騒がないこと、犬猫は繋いでおくこと” などと通達が出される一大イベントでした（注3）。

そして1729年（享保14）6月23日、将軍の別邸浜御殿（現浜離宮）に到着し、2日後吉宗に謁見します。

象は、浜離宮で飼育されますが、その後民間に払い下げられ、1741年（寛保元）4月、象の餌を納めていた中野村（現東京都中野区）の源助ら（注4）が引き取ります。

源助は、象小屋を建て、訪れる人から見物料を取るだけでなく、象の糞から作った丸薬や、饅頭も販売しました。

しかし象は、管理の悪さから、翌1742年（寛保2）12月、病死。その象牙の一部は、近くの宝仙寺（注5）に現存します（象牙は非公開）。

さて浜離宮は、1654年（承応3）に甲府藩主がこの地を拝領し、海を埋め立てて別邸を建てたのが始まり。現在、汐留川と築地川に囲まれています。

注1：謁見したのは、享保14年4月28日（1729年5月25日）。このことから、4月28日は、「象の日」となっています。

注2：江戸時代、“従四位”は老中など幕府の要職や10万石以上の大名に与えられた官位。

注3：例えば、多摩川の渡河のために、“六郷の渡”の地点（第1京浜六郷橋）に船橋（船を並べて繋ぎ合わせ、その上に板を渡して橋としたもの）が築造されています。

注4：中野村の源助のほか、押立村の平右衛門、柏木村の弥兵衛です。この中では、平右衛門が、武士に取り立てられ、出世していきます。

注5：東京都中野区中央2-33にあります。御府内八十八ヶ所の第十二番札所、関東三十六不動霊場の第十五番札所。